

あの虫 この虫なんて虫？

『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともに紹介していきます。

公園内に生息する様々な昆虫を観察し続けてきた公園スタッフですが、それでも毎年、初めての出会いが待ち受けています。今回は、令和元年を迎えて以降、長池公園で新たに確認できた昆虫をご紹介します。中には、調べるまではいったい何の仲間なのかさえわからなかった、一風変わった姿の種類もあります。里山には、未知の昆虫がまだまだたくさん棲んでいるに違いありません。

ムツバセイボウ

材木置き場での作業中、お腹からお尻にかけて虹色の模様が入った、全身エメラルドグリーンの美しい昆虫を発見。調べてみると、狩り蜂の一種、ムツバセイボウと判明しました。セイボウ（青蜂）の仲間、他のハチに託卵をする特殊な生態を持っています。



クロカミキリ

アカマツの材木上でクロカミキリを見つけました。針葉樹を好み、主に夜間活動することから、これまで見逃していたのかもしれませんが。クワガタムシのような大きなアゴと短い触覚が特徴で、その存在を知らなければカミキリムシの仲間とはとても思えません。



ホリカワクシヒゲガンボ

大型の狩りバチそっくりで、なぜか全ての脚をバンザイして飛んでいる謎の虫がいました。その正体はホリカワクシヒゲガンボ。名前にある“クシヒゲ”は雄にしかない特徴だそうです。重たそうに飛んでいたのは産卵前でお腹が膨らんでいたからでしょう。



ナガヒラタムシ

長い触角に平らな胴体、短い脚。つかむと脚をすっぽり収納してすぐさま死んだふりをしました。極めて原始的な甲虫として知られるナガヒラタムシです。恐竜時代よりもさらに昔、2億5千万年前の地層から見つかった最古の甲虫にとってもよく似ているのだとか。



ハラグロオオテントウ

ミツバウツギの葉っぱの上に、大人の指の爪くらいある巨大なテントウムシを発見しました。南方系のハラグロオオテントウという種類で、テントウムシの仲間では日本最大級。近年、温暖化の影響なのか、東京や神奈川へ進出しつつあるとのこと。



アオクチフトカメムシ

道ばたのエノキの葉っぱの上に止まっているのを見つけました。大きな体に、ラメをまぶしたような輝きが印象的なアオクチフトカメムシです。臭いイメージから嫌われがちなかメムシですが、美しい種類に出会うと見る目が変わります。

